

施策評価調書(30年度実績)

政策体系	施策名	構造改革の更なる加速	所管部局名	農林水産部	施策コード	Ⅱ-1-(1)
	政策名	変化に対応し挑戦と努力が報われる農林水産業の実現	関係部局名	農林水産部	長期総合計画頁	87

【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③	④
取組項目	変化に対応した先駆的な経営体の育成	将来を担う新たな経営体の確保・育成	新たな需要を獲得する戦略的な海外展開	新たなマーケットへの挑戦

【Ⅱ. 目標指標】

指 標	関連する取組No.	基準値		30年度			元年度	6年度	目標達成度(%)										
		年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値	目標値	25	50	75	100	125						
i 農林水産業による創出額(億円)	①②③④	H25	2,134	2,299 (H29)	2,214 (H29)	96.3%	2,311 (H30)	2,500 (R5)											
ii 農林水産業への新規就業者数(人)	②	H22~26 平均	325	405	424	104.7%	415	435											
iii 農林水産物輸出額(億円)	③	H26	15	24	24.6	102.5%	31	48											

【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理由等	平均評価
i 概ね達成	<p>H29年の創出額は2,214億円となり、前年(2,267億円)に比べ53億円(△2.3%)減少したものの、概ね目標を達成した。</p> <p>農業は1,273億円で、前年に比べ66億円(△4.9%)減少した。このうち園芸は新規就農や企業参入によりねぎ類やトマトなどで生産拡大したものの、春から初夏にかけての単価安などにより61億円(△10.5%)減少、畜産は肉用牛の枝肉価格の低下等により16億円(△3.4%)減少した。</p> <p>林業は208億円で、前年に比べ9億円(4.5%)増加した。このうち木材は、堅調な国産材需要による単価上昇に加え、バイオマス発電所の本格稼働による木材生産量の増加により、13億円(10.6%)増加した。また、栽培きのご類は、乾しいたけの生産量の減少や単価低迷により4億円(△5.3%)減少した。</p> <p>水産業は371億円で、前年に比べ16億円(△4.1%)減少した。このうち海面漁業はイワシ類などの漁獲量の減により12億円(△8.9%)減少した。また、海面養殖業は赤潮の影響によりブリ類やヒラメの生産量が減少したものの、ブリ類の単価上昇により前年とほぼ同額となった。</p> <p>付加価値額は235億円で、前年に比べ11億円(4.9%)増加した。このうち食品加工は、加工向け野菜の生産拡大やクロマグロ加工場の新規稼働などにより、前年と比べ2億円(1.5%)増加し137億円となった。木材加工は、製材品価格の上昇により前年に比べ8億円(11.6%)増加し77億円に、直売所は、災害の影響で減少していた客足が回復したことにより、前年に比べ1億円(5.0%)増加し21億円となった。</p> <p>交付金等は109億円で、前年に比べ3億円(2.8%)増加した。これは、飼料用米の面積拡大や収量向上により米政策関連の交付金が増加したことによるものである。</p> <p>(農林水産業による創出額は、基礎指標の1つである農林水産業産出額の国の公表が約1年遅れ(H30年分の公表はR1年度末)となることから、H30年度の目標・実績にはH29年の数値を記載している。)</p>	達成
ii 達成	<p>県外での移住・就業合同相談会の開催、就農学校・林業アカデミー・漁業学校等の研修制度や県独自の給付金制度など就業支援制度を充実させたことにより、H30年度は農業で248人、林業で105人、水産業で71人、合計424人と昨年度に引き続き、過去最多となる新規就業者を確保し、目標を達成した。</p>	
iii 達成	<p>スギ丸太や台湾向けの牛肉、マレーシア向けの甘太くんに加え、販売促進の強化によるベトナム向けの梨の輸出拡大が輸出額の増加を牽引し、対前年320百万円(15.0%)増となり、目標を達成した。</p>	

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・規模拡大等に向けた意欲ある担い手へ農地を集積するため、農地中間管理事業を活用した農地の出し手とのマッチングを推進した結果、H30年度は新たに225haが集積された。
②	・新規就業者の技術習得支援のため、ファーマーズスクールの品目を拡大するとともに、しいたけ版ファーマーズスクールを開設した。
③	・輸出にチャレンジする生産者等の育成に向けて、バイヤーの招へいや商談会への出展を通じ、海外ニーズを把握する機会を提供した結果、「ブランドおおいた輸出促進協議会」の会員数が増加した。 (H29:34者→H30:35者) ・海外在住のコーディネーターをアメリカに1名、シンガポールに1名配置し、海外プロモーション時の現地支援やマーケットの最新情報の提供を受けたことにより、アメリカでは県産和牛肉、シンガポールでは甘太くんの販促を強化することができた。
④	・有機農産物の県内大手量販店等での取扱いの拡大に向けて、生産者のグループ化による周年出荷等の取組を支援した結果、取扱店舗が拡大した。(H29:10店舗→H30:16店舗)

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(30年度事業)	事業コスト(千円)	事務事業評価		主要な施策の成果掲載頁
			総合評価	元年度の方向性	
①	農福連携農業労働力マッチング支援事業	12,075	A	継続・見直し	176
	農地中間管理推進事業	218,608	C	継続・見直し	177
	園芸産地スマート化推進事業	28,412	A	継続・見直し	178
②	地域育成型就農システム支援事業	30,545	A	継続・見直し	179
	農業次世代人材投資事業	480,828	A	継続・見直し	180
	企業等農業参入推進事業	46,861	A	継続・見直し	181
	肉用牛繁殖経営体確保・働き方改革推進事業	43,215	A	継続・見直し	182
	再造林担い手確保支援事業	24,554	A	終了	183
	林業就業準備支援事業	19,731	A	終了	184
	乾しいたけ新規参入者支援事業	31,082	A	継続・見直し	185
	主伐・再造林システム構築事業	47,117	A	継続・見直し	186
	漁業担い手総合対策事業	24,049	A	継続・見直し	187
	農林水産物輸出需要開拓事業	76,255	A	継続・見直し	188
③	有機農産物生産流通拡大推進事業	18,127	B	継続・見直し	189
	6次産業化サポート体制整備事業	164,140	A	継続・見直し	190
	食品企業連携産地拡大推進事業	52,863	A	継続・見直し	191

【VI. 施策に対する意見・提言】

<p>○第10回「安心・活力・発展プラン2015」推進委員会(H31.2) ・水田については多面的機能を有しているため、高収益作物の導入に向けた畑地への転換と併せて、防災面での棚田保全やブランド米づくりなど、水田の維持にも着目してほしい。</p>

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・農林水産業による創出額の目標を達成するため、市町村や農業団体等と連携し、もうかる、魅力ある農林水産業の実現に向けた構造改革を更に加速する。 ・水田畑地化により高収益な園芸品目を導入し、大規模産地化を加速するとともに、ドローン等の先端技術により、生産効率と品質の向上などを図る。 ・拠点市場での戦略品目のシェア拡大に向け、大分青果センターの活用など県域生産・流通体制を拡充する。 ・畜産では「おおいた和牛」のブランド確立や増頭対策、「葵白清」等に続く高能力な種雄牛の造成、枝肉重量・肉質の向上などの取組を進める。 ・TPP11等の発効を輸出の好機と捉え、取引量の拡大、品目の拡大、相手国の拡大の3つの拡大を図る。 ・新規就業者の確保、経営安定に向けた規模拡大等に加え、企業参入などを促進するほか、人手不足の中、女性をはじめ高齢者や外国人など多様な人材の活用を進める。